

## 【介護から自分を知る⑱】

東海社会福祉科学研究所

大 北 秀 雄

### (3) 個別対応—認知症以外2

認知症においても説明しましたが、いかに制度を的確に活用することができるかどうかです。なるべく長く在宅生活を続けようと思っているならば、介護をどうしていくかで変わってきます。無理をした介護を前提とするならば長く続くことは困難ですし、不幸となる要因が発生することも多くあります。

介護する方も介護される方も、納得できる状況をつくる必要があります。そのためにも情報の収集と客観的な気持ちが要求されます。主観的、特に利己的な考え方でものごとを判断することは慎まなければ不幸の原因をつくることにつながりますので注意してください。

今の状況及び考え方を理解して頂けるケアマネジャー、介護事業者を選択することが特に大切になってきます。そのためにも情報の収集がとても大切になってきますし、その情報をもとに選ぶこととなりますので、その選択の仕方に注意することが必要です。現在、これからをどうするのかに直接関わってきますので安易に考えないことが必要ですし、納得ができる状況をつくりだすことが大切です。現実は何れでもが同じように相談にのってくれることは難しいです。その人の力量と考え方によって変わりますし、事業者の考え方によっても異なってきたるのが現実です。制度そのものが始まったばかりで、ヨーロッパのように歴史がありません。国民に理解されていないところが多くありますし、現在利用している高齢者、家族等も十分に理解しているとはいえませんし、関係者、行政においても人によって変わって判断されているところがありますし、制度の目的が曖昧になっているところも多く見られます。

もう一度次のことを確認してください。

- ・ 具体的には何が必要なのか、
- ・ 要望どおりなることが可能なのか、
- ・ なにが問題なのか、
- ・ 今の状態を的確に理解されているのか
- ・ 適正なサービスがされているのか
- ・ 的確な介護がされているのか
- ・ 関係者に適正理解されているのか
- ・ 家族が状態、環境を理解しているのか

など

高齢者、家族等にとっては、生活に大きく影響を与えることとなりますから、無理をしないで毎日を継続させることが必要です。問題の先送りをしないで、

貴重な時間が無駄に経過することがないように、皆が十分理解したうえで行動することが求められています。